

Title	編集後記
Sub Title	
Author	平, 良(Taira, Ryo)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1980
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.53, No.12 (1980. 12) ,p.397- 397
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	法学部法律学科開設九十周年記念論文集
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19801215-0397">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19801215-0397</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 編集後記

慶應義塾大学法律学科は一八九〇年に創立されてから、本年をもつて九十年を迎えた。九十年という年は世間という古稀や米寿などに当るお祝の年になつてゐるわけではない。しかしながら九十年といつた年は百年を目前とし次の百年の大計を考えるのには適した時であると思われる。このことから法律学科においては歴史を顧み、将来の計を考える機会として九十年の諸行事を考えたいのである。

その中で、すでに九月二七日に学生諸君を主たる対象として講演会を開催した。

講師 塾員、元判事 齊藤寿郎氏

「最高裁判所の実情とその判例について」

同、塾名誉博士、ケルン大学教授 G・バウムゲルテル氏

「法曹教育における民事訴訟法の占める役割」

バウムゲルテル教授の講演は、「大学の法学教育における民事訴訟法の意義」といつた題で本論文集に掲載している。

この他に現在の専任者の相互啓発のために毎月一回は研究発表会を行い、さらに、すでに退任された諸先生による指導と刺戟をえたものと考へている。

塾の法律学科は、ジョン・ヘンリー・ウィグモアによつて始められてから、神戸寅次郎、青木徹二、西本辰之助、峯岸治三、小池隆一、峯村光郎等々といつた数多くのすぐれた学者に支えられつつ現在にいたつてゐる。わたくし達はこうした先輩に感謝しつつ、この法律学科をより優れたものにするために歩みをつづけたい。規模においても明治二十五年にわずか五名の卒業生を送り出した法律学科が現在は毎年六〇〇人からの卒業生を送り出し、法曹界に活躍する人々の増加している今日において、わたくし達は研究・教育において充実した法律学科に育てて行く責任を果さなければならぬ。

本論文集は現在のスタッフの研究の一部を世に問うものである。本来なら全スタッフの研究成果におよぶべきものではあるが、諸般の事情から一部に限定され、他のスタッフについては別の機会に「法学研究」等を通じて発表されることとなつた。先輩の偉大な業績にくらべるとわたくし達の研究はまだ足りない点が少くないと思はれるが、この九十年を機会にして百年へ向けて一層の努力を重ねる考へである。

法律学科九十年記念委員会

平 良